

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	中学生とその親世代における人生に対する価値観と親子関係
Author(s)	本田, 優子; 小松, 綾子; 田中, 美貴; 米村, 健一
Citation	熊本大学教育学部紀要 自然科学, 52: 63-74
Issue date	2003-11-28
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/2431
Right	

中学生とその親世代における人生に対する価値観と親子関係

本田優子^{*1}・小松綾子^{*1}・田中美貴^{*1}・米村健一^{*1}

The Most Important Things in the Value of Life for the Junior High School Students and Parents Generations, and the Influences of Parents-Children Relationships on the Establishment of the Value of Life

Yuuko HONDA^{*1}, Ayako KOMATSU^{*1}, Miki TANAKA^{*1} and Ken'ichi YONEMURA^{*1}

(Received October 1, 2003)

A questionnaire survey was carried out among junior high school students (n = 158) and their parents (n = 158) to clarify the most important things in the value of life for each of them, and to know whether they have intimate parents-children relationships and how the relationships influence on the establishment of the value of life.

1. As compared to the male students, the female students showed in a higher response rate a tendency not to care much about whether or not they were being married and they have their own children at their adult ages, and the female students had a better communication with their parents.

2. As for the most important things in life at adult ages, the students responded to have a happy family and success of work, and the female students as well as the male students had thought of that having a job and spending a self-reliant life are important. It was important for the parents generations that their children are being respected from others and have children when grown up.

3. For the students who had many conversations with the parents, it was thought to be important that their daily life with volunteer activities could bring them sense of well-being, and that at their earlier stages of life they become possible to spend self-reliant life. For the students who had few conversations with parents, it was important to have success in their work and to be promoted to higher ranks. On the other hand, for the parents who had many conversations with children, it was important to have their own children because to do that should bring them sense of well-being.

Key words : value of life, parents-children relationships, junior high school students, parents generation

I. 緒 言

近年、国際化・情報化・フェミニズム化などが進み、常に変化し続けている現代社会の中、少年非行の低年齢化が目立ち、その中でも高校生よりも中学生の増加¹⁾が注目されるようになってきている。さらに、外見上問題のない家庭の少年や非行歴のない少年が、突然重大事件を引き起こす、いわゆる優等生・良い子の凶悪犯罪が増加してきたことも近年の特徴である。それ以

外にも現代の中学生に関する問題として、いじめや不登校、ひきこもり、心身症、ストレス、受験戦争など様々なものがあげられる。これらの問題は、個人主義・価値観の多様化¹⁻²⁾が特徴としてあげられる社会状況や、家族の解体による急激な家族の変容³⁾という社会環境が関係しているのではないかと推測される。

中学生の年代は、親に依存していた子どもが、心理的に親元を離れ自立していく「依存から自立」への谷間の時期⁴⁾であり、それぞれの環境や人間関係の中で自らの価値観を形成していく時期である。しかし、こ

^{*1} 本田優子, 小松綾子, 田中美貴, 米村健一: 熊本大学教育学部養護教育講座: 860-8555 熊本市黒髪 2-40-1, Yuuko HONDA: Department of School Health Nursing Education, Faculty of Education, Kumamoto University, Kurokami 2-40-1, Kumamoto, 860-8555, Japan.

の人間関係や価値観、社会性の獲得との関連について松井⁵⁾の研究では「日本の若者は人間関係に顕著な問題を抱えていることが明らかになった。日本の若者は愛他性、共感性、社会的スキルなどの人間関係についての個人的要因に問題があり、そのために人間関係に問題や悩みを抱えることとなるようだ。このような傾向は中学生男子で最も強い。」と言われ、また、「性などの非行の行為に許容的であり、物質志向、外的統制などの価値観に問題があり、さらに、自制心や情緒性、意欲等も問題があり、そのようなことが悩みや人間関係の問題の原因にもなっていると考えられる。」と言われている。よって、この価値観が形成される過程には、親子の関わりが大きく影響しているのではないかと考えられる。親のしつけ様式や価値意識などが、子どもの基本的なパーソナリティ形成に重要な役割を担っていると言われている³⁾が、親子間のコミュニケーションが十分とれていない家庭も少なくないであろう。つまり、子ども達が、日々の生活において重要だと考えているものと、親が重要だと考えているものとは、ある部分で明らかな違いがある¹⁾。

以上のように、これまでに、価値観と親子関係について検討した研究は少ないが、親の「社会的評価」に関する価値観が、子どもの「学校的価値」に関する価値観に影響を及ぼしているということ¹⁾や家庭内での相互作用が頻繁であると認識されている家庭では、同性の親子間で階層志向に関する意識の相関が認められること³⁾が分かっている。

今日、学校現場において、子ども達の心の問題に対応し支えていく養護教諭として、親の価値観や子どもの価値観を明らかにし、また親子関係と価値観との関連を理解しておくことが必要であると考えられる。そこで本研究では、中学生とその親に対して人生に対する価値観と親子関係に関するアンケート調査を実施し、分析した。

II. 研究方法

1. 調査方法および調査内容

- 1) 調査期間：平成 13 年 11 月下旬～12 月初旬
- 2) 調査対象：調査について、協力が得られた熊本市内の中学校一校の 3 年生 158 名（男子 75 名、女子 83 名）と、その保護者 158 名、計 316 名。
- 3) 調査方法：人生に対する価値観および親子関係についての選択肢法を用いた質問用紙（中学生用・保護者用）を作成した。調査対象者である中学 3 年生に対しては各学級担任による集合一斉調査を行った。保護者に対しては、質問紙を生徒に持ち帰ってもらい、返

信用封筒にて質問紙を郵送してもらった。

4) 調査内容：人生に対する価値観についての質問紙は、ベネッセ教育研究所の質問紙⁶⁾を参考に作成した。質問項目は、仕事や生き方に関する合計 37 項目を設定した。選択肢は、4「とても重要」、3「どちらかという」と重要」、2「どちらかという」と重要ではない」、1「全く重要ではない」などの 4 段階評定とした。これは、点数が高いほど、質問項目に対する肯定感が強いことを示している。さらに、子どもが親もとを離れて生活する適切な時期について、7つの選択肢のうち一つの選択を求めた。

親子関係についての質問紙は、古賀が作成した質問紙³⁾を一部改変して用いた。質問項目は 16 項目から成り、選択肢は 4「ぴったりあてはまる」、3「だいたいあてはまる」、2「あまりあてはまらない」、1「ぜんぜんあてはまらない」の 4 段階評定とした。これは、点数が高いほど質問項目に対する肯定感が強いことを示している。

中学生用と保護者用の質問紙は、両方の各質問項目が同じ内容になるようにした。また、各質問項目の表現については、調査対象となる中学生が在学している中学校の先生方に助言を受け、中学生と保護者にとって回答しやすい表現に修正した。

2. 分析方法

親世代の価値観については、父親の回答数が少数であったため、今回は主に母親の価値観を取り上げ、また、中学生と親世代の親子関係についても同様に、父親の回答数が少数であったため、主に母親からみた親子関係を取り上げた。

価値観と親子関係のデータ分析については、各質問項目と全項目における平均を求め、さらに、全体平均と各質問項目平均との差の検定や男女間、父母間、母子間の差の検定を行った。このとき、Welch の t 検定あるいはカイ二乗検定を用い、5%の危険率で有意差の判定を行った。

親子関係の相互作用性の強さは、質問項目「5. 親子で互いに話をする機会が多い」への回答により判断した。つまり、選択肢 4「ぴったりあてはまる」または 3「だいたいあてはまる」を選択した人を高相互作用群（以下：高群）とし、選択肢 2「あまりあてはまらない」または 1「ぜんぜんあてはまらない」を選択した人を低相互作用群（以下：低群）として分類した。

3. 用語の操作的定義

1) 価値観：「価値」とは、井上⁷⁾の定義に従い、行動のあり方あるいは存在の究極的なあり方に関する個人的・社会的な好選択についての永続的な信念であると定義し、「価値観」とは、この「価値」が個人に内在的に人格化されたものであり、その個人が選択や決

定を行う際には、その個人に独自の一貫した判断基準となるものであると定義した。

2) 親子関係:「親子関係」については、古賀³⁾の研究に基づき、親子の人間関係の1つである、コミュニケーションの深さを示す「相互作用性」を親子関係を代表するものとみなした。

Ⅲ. 結 果

1. アンケートの回収について

中学生に対する調査用紙配布部数は158部であり、回収部数は157部(回収率99.4%)であった。そのうち、有効回答部数は139部(男子66部、女子73部)であり、有効回答率は88.5%であった。

保護者に対する調査用紙配布部数は158部であり、回収部数は88部(回収率55.7%)であった。そのうち、有効回答部数は73部(父親9部、母親63部、祖母1部)であり、有効回答率は83%であった。

2. 人生に対する価値観について

1) 中学生の価値観

表1に示すように、「あなたは、大人であれば、次のことは重要だと思いますか？」への回答について、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「6. 幸せな家庭をつくる」「5. 仕事の面で成功する」の順に5項目あげられた。一方、有意に低い項目は、「3. 海外で働く」「7. 有名人になる」の順に4項目あげられた。男子と女子を比較してみると、女子の平均値が男子より有意に低い項目は、「5. 仕事の面で成功する」の1項目があげられた。

「あなたは、あなたのご両親の年齢になったとき、次の事は重要だと思いますか？」への回答において、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「1. 仕事をしていること」「6. 生活全般に満足していること」の順に4項目あげられた。一方、有意に低い項目は、「3. 離婚をしていること」の1項目があげられた。女子の平均値が男子より有意に低い項目は、「1. 仕事をしていること」「2. 結婚をしていること」「4. 子どもがいること」の3項目があげられた。

「あなたは、どんな仕事が重要だと思いますか？」への回答において、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「4. 自分に合っている仕事」「11. 自分の個性を発揮できる仕事」の順に4項目があげられた。一方、有意に低い項目は、「7. 責任の軽い仕事」「10. 協調性のいらない仕事」の順に2項目があげられた。女子の平均値が男子より有意に低い項目は、「6. むずかしい知識や技術のいる仕事」「9. なるのがむずかしい仕事」の2項目があげられた。

「あなたは、次のような生き方は重要だと思いますか？」への回答において、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「5. 早く自分の力で生きること」「2. 自分のためよりも、人のために役立つ人間になること」の順に2項目があげられた。女子の平均値が男子より有意に低い項目は、「1. 何かをやりとげて、この世に自分の生きた結果を残すこと」「3. この世に生まれてきた以上、ほかの人とは違う生き方をすること」の2項目があげられた。

「人生について次のような考え方があります。あなたはこれに賛成ですか、反対ですか？」への回答において、女子の平均値は男子より有意に低かった。全体と男子においては、それぞれの全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「3. 幸せに生きるためには、お金よりも愛情や友情の力が大きい」「1. がまんして努力しつづけていれば、いつか必ずむくわれる」の順に3項目があげられた。女子の平均値が男子より有意に低い項目は、「3. 幸せに生きるためには、お金よりも愛情や友情の力が大きい」「5. 世の中で成功するには、実力だけでなく、運のよさが大事だ」の2項目があげられた。

2) 親世代の価値観

表1に示すように、「あなたは、大人であれば、次のことは重要だと思いますか？」への回答において、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「6. 幸せな家庭をつくる」「8. 人から尊敬される人になる」の順に4項目があげられた。父親においては、父親の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「6. 幸せな家庭をつくる」「8. 人から尊敬される人になる」の順に2項目があげられた。母親においては、母親の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「6. 幸せな家庭をつくる」「8. 人から尊敬される人になる」の順に4項目があげられた。

「あなたは、ご自分の年齢において次の事は重要だと思いますか？」への回答において、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「6. 生活全般に満足していること」「4. 子どもがいること」の順に2項目があげられた。父親においては、父親の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「1. 仕事をしていること」の1項目があげられた。母親においては、「6. 生活全般に満足していること」「4. 子どもがいること」の順に3項目があげられた。

「あなたは、どんな仕事が重要だと思いますか？」への回答において、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「4. 自分に合っている仕事」「11. 自分の個性を発揮できる仕事」の順に2項目があげられた。父親においては、父親の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「4. 自分に合っている仕事」「1. 人のため

表1 中学生と親世代の「人生に対する価値観に関する質問」への回答平均(点)

1. あなたは、大人であれば、次のことは重要だと思いますか?	中学生 (N=139)	男子 (N=66)	女子 (N=73)	親全体 (N=72)	父親 (N=9)	母親 (N=63)	
1、外国語を話せる	3.00 H	3.02	2.99	2.71	3.00	2.65	c, d, e
2、海外に留学する	2.13 L	2.15 L	2.11 L	2.16 L	2.22	2.14 L	
3、海外で働く	1.88 L	1.85 L	1.92 L	1.81 L	1.78 L	1.79 L	
4、ボランティア活動をする	3.22 H	3.15 H	3.27 H	3.14 H	3.11	3.13 H	
5、仕事の面で成功する	3.44 H	3.56 H	3.33 H	3.07 H	3.33	3.05 H	c, d, e
6、幸せな家庭をつくる	3.73 H	3.79 H	3.68 H	3.79 H	3.78 H	3.79 H	
7、有名人になる	1.90 L	1.95 L	1.85 L	1.70 L	2.00 L	1.67 L	c, d
8、人から尊敬される人になる	3.42 H	3.47 H	3.38 H	3.29 H	3.44 H	3.25 H	
9、お金持ちになる	2.63 L	2.73	2.55 L	2.47	2.67	2.46	
平均	2.82	2.85	2.79	2.68	2.81	2.66	c, d, e
2. あなたは、あなたのご両親の年齢になったとき、次の事は重要だと思いますか?	中学生 (N=139)	男子 (N=66)	女子 (N=73)	親全体 (N=72)	父親 (N=9)	母親 (N=63)	
1、仕事をしていること	3.78 H	3.94 H	3.63 H	3.05	3.89 H	2.95	b, c, d, e
2、結婚をしていること	3.06	3.21	2.92	2.90	3.33	2.87	d
3、離婚をしていること	1.24 L	1.29 L	1.19 L	1.68 L	1.56 L	1.71 L	C, D, e
4、子どもがいること	2.89	3.11	2.70	3.19 H	3.22	3.22 H	C, D, E
5、家の経済は豊かなこと	3.39 H	3.44 H	3.34 H	3.08	3.11	3.11 H	c, d, e
6、生活全般に満足していること	3.58 H	3.59 H	3.58 H	3.27 H	3.33	3.25 H	c, d, E
7、今(中学時代)に比べて幸せだと思うこと	3.24 H	3.32	3.18	2.75	2.78	2.78	c, d, e
平均	3.03	3.13	2.93	2.85	3.03	2.84	c, d
3. あなたはどんな仕事が重要だと思いますか?	中学生 (N=139)	男子 (N=66)	女子 (N=73)	親全体 (N=72)	父親 (N=9)	母親 (N=63)	
1、人のためになる仕事	3.60 H	3.59 H	3.62 H	3.42 H	3.56 H	3.40 H	c, e
2、お金がもうかる仕事	2.98	3.09	2.88	2.71	3.00	2.70	c, d
3、人から尊敬される仕事	3.36 H	3.32 H	3.40 H	3.00 H	3.22	3.00 H	c, d, e
4、自分に合っている仕事	3.90 H	3.86 H	3.93 H	3.77 H	3.67 H	3.79 H	e
5、休みがたくさんとれる仕事	2.58 L	2.67	2.51 L	2.51	2.44	2.54	
6、むずかしい知識や技術のいる仕事	2.46 L	2.59 L	2.34 L	2.66	2.89	2.65	E
7、責任の軽い仕事	1.86 L	2.00 L	1.74 L	1.88 L	1.89 L	1.87 L	
8、人に命令されずにすむ仕事	2.41 L	2.53 L	2.30 L	2.30 L	2.56	2.27 L	
9、なるのがむずかしい仕事	2.40 L	2.68	2.15 L	2.23 L	2.11 L	2.25 L	d
10、協調性のいらない仕事	1.98 L	1.95 L	2.00 L	1.81 L	1.78 L	1.81 L	
11、自分の個性を発揮できる仕事	3.76 H	3.79 H	3.74 H	3.49 H	3.44 H	3.52 H	c, d, e
平均	2.85	2.92	2.78	2.71	2.78	2.71	c, d, e
4. あなたは、次のような生き方は重要だと思いますか?	中学生 (N=139)	男子 (N=66)	女子 (N=73)	親全体 (N=72)	父親 (N=9)	母親 (N=63)	
1、何かをやりとげて、この世に自分の生きた結果を残すこと	3.14	3.30	3.00	2.79	2.78	2.83	c, d
2、自分のためよりも、人のために役立つ人間になること	3.17 H	3.29	3.07	2.88	2.89	2.87	c, d
3、この世に生まれてきた以上、ほかの人とは違う生き方をすること	2.60 L	2.79	2.42 L	2.07 L	2.11 L	2.08 L	c, d, e
4、お父さんやお母さんの生き方を見習って、生きること	2.55 L	2.50 L	2.59	2.40 L	2.56	2.40 L	
5、早く自分の力で生きること	3.27 H	3.36 H	3.19 H	3.30 H	3.44 H	3.30 H	
平均	2.95	3.05	2.85	2.69	2.76	2.70	c, d, e
5. 人生について次のような考え方がありません。あなたはこれに賛成ですか、反対ですか?	中学生 (N=139)	男子 (N=66)	女子 (N=73)	親全体 (N=72)	父親 (N=9)	母親 (N=63)	
1、がまんして努力しつづけていれば、いつか必ずむくわれる	3.18 H	3.26 H	3.11 H	2.96 H	3.11 H	2.94 H	c, d
2、人に迷惑さえかけなければ、何をしようとその人の自由だ	2.09 L	2.15 L	2.04 L	1.90 L	1.56 L	1.97 L	
3、幸せに生きるためには、お金よりも愛情や友情の力が大きい	3.36 H	3.48 H	3.25 H	3.05 H	3.00	3.05 H	c, d
4、有名大学を出て出世している人は、人間として信頼できない	2.04 L	2.06 L	2.01 L	1.99 L	1.67 L	2.05 L	
5、世の中で成功するには、実力だけでなく、運のよさが大事だ	2.95 H	3.17 H	2.75	2.90 H	2.67	2.97 H	
平均	2.72	2.82	2.63	2.56	2.40	2.59	c, d

H. 各平均値より有意に高い回答平均 ($p < 0.05$)L. 各平均値より有意に低い回答平均 ($p < 0.05$)a. 男子より有意に低い女子の回答平均 ($p < 0.05$)b. 父親より有意に低い母親の回答平均 ($p < 0.05$)c. 中学生より有意に高い母親の回答平均 ($p < 0.05$)c. 中学生より有意に低い母親の回答平均 ($p < 0.05$)D. 男子より有意に高い母親の回答平均 ($p < 0.05$)d. 男子より有意に低い母親の回答平均 ($p < 0.05$)E. 女子より有意に高い母親の回答平均 ($p < 0.05$)e. 女子より有意に低い母親の回答平均 ($p < 0.05$)

になる仕事」の順に3項目があげられた。母親においては、母親の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「4. 自分に合っている仕事」「11. 自分の個性を發揮できる仕事」の順に4項目があげられた。

「あなたは、次のような生き方は重要だと思いますか？」への回答において、全体と父親および母親においては、それぞれの全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「5. 早く自分の力で生きること」の1項目があげられた。

「人生について次のような考え方があります。あなたはこれに賛成ですか、反対ですか？」への回答において、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「3. 幸せに生きるためには、お金よりも愛情や友情の力が大きい」「1. がまんして努力しつづけていれば、いつか必ずむくわれる」の順に3項目があげられた。

3) 中学生と親世代の価値観

表1に示すように、「あなたは、大人であれば、次のことは重要だと思いますか？」への回答において、母親の平均値が中学生全体と男子より有意に低い項目は、「1. 外国語を話せる」「5. 仕事の面で成功する」「7. 有名人になる」の3項目があげられた。

「あなたは、あなたのご両親（ご自分）の年齢になったとき、次の事は重要だと思いますか？」への回答において、母親の平均値が中学生全体より有意に高い項目は、「3. 離婚をしていること」「4. 子どもがいること」の2項目があげられた。一方、母親の平均値が中学生全体より有意に低い項目は、「1. 仕事をしていること」「5. 家の経済は豊かなこと」「6. 生活全般に満足していること」「7. 今（中学時代）に比べて幸せだと思うこと」の4項目があげられた。

「あなたは、どんな仕事が重要だと思いますか？」への回答において、母親の平均値が中学生全体より有意に低い項目は、「1. 人のためになる仕事」「2. お金がかかる仕事」「3. 人から尊敬される仕事」「11. 自分の個性を發揮できる仕事」の4項目があげられた。

「あなたは、次のような生き方は重要だと思いますか？」への回答において、母親の平均値が中学生全体および男子より有意に低い項目は、「1. 何かをやりとげて、この世に自分の生きた結果を残すこと」「2. 自分のためよりも、人のために役立つ人間になること」「3. この世に生まれてきた以上、ほかの人とは違う生き方をすること」の3項目があげられた。

「人生について、次のような考え方があります。あなたは、これに賛成ですか、反対ですか？」への回答において、母親の平均値が中学生全体や男子より有意に低い項目は、「1. がまんして努力しつづけていれば、いつか必ずむくわれる」「3. 幸せに生きるためには、お金よりも愛情や友情の力が大きい」の2項目があげられ、女子との有意差はみられなかった。

4) 中学生と親世代から見た「子どもが親もとを離れて生活する適切な時期」について

表2に示すように、中学生において「あなたは、子どもが親元を離れて生活する時期はいつが適切だと思いますか。」への回答率は、男女間に有意差はみられなかった。全体においては、「3. 大学生のうちから (46.8%)」「4. 就職してから (33.8%)」の順に回答率が高く、女子の平均値が男子より有意に高い項目は、「5. 結婚してから」の1項目があげられた。

親世代において「あなたは、子どもが親元を離れて生活する時期はいつが適切だと思いますか。」への回答率は、「4. 就職してから (51.4%)」「3. 大学生のうちから (23.6%)」の順に高く、父親においては、「4. 就職してから (66.7%)」が最も回答率が高く、母親においては、「4. 就職してから (47.6%)」「3. 大学生のうちから (25.4%)」の順に回答率が高く、父母間に有意差はみられなかった。

中学生と親世代における「あなたは、子どもが親元を離れて生活する時期はいつが適切だと思いますか。」への回答率において、母親の回答率が中学生全体より有意に高い項目は、「5. 結婚してから」の1項目があ

表2 中学生と親世代の「子どもが親もとを離れて生活する適切な時期」についての回答割合 (%)

6、あなたは、子どもが親もとを離れて生活する時期はいつが適切だと思いますか？	中学生 (N=139)	男子 (N=66)	女子 (N=73)	親全体 (N=72)	父親 (N=9)	母親 (N=63)
1、中学生のうちから	0.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0
2、高校生のうちから	5.0	4.5	5.5	2.8	0.0	3.2
3、大学生のうちから	46.8	57.6	37.0	23.6	11.1	25.4
4、就職してから	33.8	31.8	35.6	51.4	66.7	47.6
5、結婚してから	11.5	4.5	17.8 A	20.8	11.1	22.2 C
6、結婚後も同居する	0.7	0.0	1.4	1.4	11.1	0.0
7、その他	1.4	0.0	2.7	1.4	0.0	1.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

A. 男子より有意に高い女子の回答割合 ($p < 0.05$)

C. 中学生より有意に高い母親の回答割合 ($p < 0.05$)

げられた。

3. 親子関係について

1) 中学生から見た親子関係

表3に示すように、中学生から見た「親子関係に関する項目」への回答において、全体平均と比べ平均が有意に高い項目は、「1. 親と1日1回は会話をする」「5. 親子で互いに話をする機会が多い」の順に4項目があげられた。一方、有意に低い項目は、「4. 親に悩み事を相談する」「14. 親は自分のやっている事によく手を貸す」をはじめ、3項目があげられた。男子と女子を比較してみると、女子の平均値が男子より有意に高い項目は、「1. 親と1日1回は会話をする」「2. 親に学校のことや友人についてよく話をする」「4. 親に悩み事を相談する」「6. 自分は家の手伝いをよくする」「7. 親が病気のときによく看病する」「16. 親の

生き方を尊敬している」の6項目があげられた。

2) 親世代から見た親子関係

表3に示すように、親世代から見た「親子関係に関する項目」への回答において、全体の平均値と比べ平均が有意に高い項目は、「1.1日1回は子どもと会話をする」「5. 親子で互いに話をする機会が多い」「15. 子どもに自分のことは自分でやるようによく言う」の順に3項目があげられた。一方、有意に低い項目は、「14. 子どもがやっている事によく手を貸してしまう」「16. 子どもは親の生き方を尊敬している」の順に3項目があげられた。父親と母親を比較してみると、父母間に有意差はみられなかった。

3) 中学生と親世代の親子関係の比較

表3に示すように、中学生と母親における「親子関係に関する項目」への回答について、両者を比較して

表3 中学生と親世代における「親子関係に関する項目」への回答平均（点）

質問項目（上段：中学生対象、下段（ ）内：親世代対象）	中学生 (N=139)	男子 (N=66)	女子 (N=73)	親全体 (N=72)	父親 (N=9)	母親 (N=63)
1、親と1日1回は会話をする （1日1回は子どもと会話する）	3.73 H	3.58 H	3.88 H,A	3.79 H	3.33	3.86 H D
2、親に学校のことや友人についてよく話をする （子どもは学校や友人についてよく話をする）	3.15 H	2.83	3.44 H,A	3.14	2.67	3.21 D
3、親は自分（親）のことにについてよく話をする （自分の事をよく子どもに話をする）	2.69	2.56	2.81	2.95	2.56	3.02 C,D
4、親に悩み事を相談する （子どもの悩み事をよく聞く）	2.14 L	1.88 L	2.37 L,A	2.97	2.56	3.03 C,D,E
5、親子で互いに話をする機会が多い （親子で互いに話をする機会が多い）	3.21 H	3.09 H	3.32 H	3.37 H	2.89	3.44 H C,D
6、自分は家の手伝いをよくする （子どもは家の手伝いをよくする）	2.55 L	2.30 L	2.78 A	2.62 L	2.56	2.63 L D
7、親が病気のときによく看病する （子どもは病気の時よく看病してくれる）	2.58	2.27 L	2.85 A	2.93	2.44	3.02 C,D
8、いつもみんなで助け合おうとする （いつもみんなで助け合おうとする）	2.65	2.55	2.74	2.92	2.78	2.94 C,D
9、親は自分によく小言を言う （子どもによく小言を言う）	2.60	2.61	2.59 L	2.90	2.89	2.92 C,E
10、親にことば使いや、生活のきまりをやかましく言われる （子どもに言葉使いや、生活のきまりについて、やかましく言っている）	2.71	2.67	2.74	3.16	3.22	3.16 C,D,E
11、親に「勉強しなさい」とよく言われる （子どもに「勉強しなさい」とよく言う）	2.70	2.71	2.68	2.88	2.67	2.90
12、親は子どものしつけに厳しい （子どものしつけに厳しい）	2.62	2.58	2.64	2.85	3.00	2.83
13、身の回りのことは自分でやっている （子どもに身の回りの事は自分でやらせている）	2.87	2.82	2.92	3.15	3.00	3.17 C,D,E
14、親は自分のやっている事によく手を貸す （子どもがやっている事によく手を貸してしまう）	2.14 L	2.11 L	2.18 L	2.29 L	2.33	2.29 L
15、親に「自分のことは自分でやるように」とよく言われる （子どもに自分のことは自分でやるようによく言う）	3.04 H	3.05 H	3.03	3.37 H	3.22	3.40 H C,D,E
16、親の生き方を尊敬している （子どもは親の生き方を尊敬している）	2.58	2.41	2.73 A	2.47 L	2.78	2.43 L e
平均	2.75	2.63	2.86 A	2.98	2.81	3.01 B,C,D,E

H. 各平均値より有意に高い回答平均(p<0.05) C. 中学生より有意に高い母親の回答平均 (p<0.05)
 L. 各平均値より有意に低い回答平均(p<0.05) D. 男子より有意に高い母親の回答平均 (p<0.05)
 A. 男子より有意に高い女子の回答平均(p<0.05) E. 女子より有意に高い母親の回答平均 (p<0.05)
 B. 父親より有意に高い母親の回答平均(p<0.05) e. 女子より有意に低い母親の回答平均 (p<0.05)

みると、母親は、中学生全体および男子、女子それぞれの全体平均より有意に高かった。

母親の平均値が中学生全体より有意に高い項目は、「3. 親は自分（親）のことについてよく話をする（自分の事をよく子どもに話をする）」「4. 親に悩み事を相談する（子どもの悩み事をよく聞く）」「5. 親子で互いに話をする機会が多い」「7. 親が病気のときによく看病をする（子どもは病気の時よく看病をしてくれる）」の順で9項目があげられた。一方、有意に低い項目はなかった。

また、男子より有意に高い項目は、「1. 親と（子どもと）1日1回は会話をする」「2. 親に（子どもは）学校のことや友人についてよく話をする」「3. 親は自分（親）のことについてよく話をする（自分の事をよく子どもに話をする）」の順で11項目があげられた。一方、有意に低い項目はなかった。

また、女子より有意に高い項目は、「4. 親に悩み事を相談する（子どもの悩み事をよく聞く）」「9. 親は自分によく小言を言う（子どもによく小言を言う）」「10. 親にことば使いや、生活のきまりをやかましく言われる（子どもに言葉使いや、生活のきまりについて、やかましく言っている）」の順で5項目があげられた。一方、母親の平均値が女子より有意に低い項目はただ1つであり、「16. 親の生き方を尊敬している（子どもは親の生き方を尊敬している）」であった。

4. 人生に対する価値観と親子関係の関連性について

表4に示すように、親子関係に関する質問項目「5. 親子で互いに話をする機会が多い」における高相互作用群と低相互作用群の割合は、中学生が高群110人（79.1%）、低群29人（20.9%）であり、母親が高群60人（95.2%）、低群3人（4.8%）であった。このとき、中学生においても母親においても高相互作用群の占める割合が有意に高く、中学生も母親も、お互いに話をする機会が多いと感じていた。

表4 「親子で互いに話をする機会が多い」における高相互作用群と低相互作用群の回答割合

		単位：人（%）	
		中学生	母親
高相互作用群		110 (79.1) *	60 (95.2) *
		男子48 女子62	
低相互作用群		29 (20.9) *	3 (4.8) *
		男子18 女子11	
全体		139 (100)	63 (100)

*. 各全体に比して有意な差がある回答割合（ $p < 0.05$ ）

1) 中学生の価値観と親子関係の関連性

表5に示すように、中学生における「あなたは、大人であれば、次のことは重要だと思いますか？」への回答において、高群においては、高群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「6. 幸せな家庭をつくる」「8. 人から尊敬されるひとになる」の順に5項目があげられた。

一方、低群においては、低群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「6. 幸せな家庭をつくる」「5. 仕事の面で成功する」の順に3項目があげられた。低群の平均値が高群より有意に低い項目は、「4. ボランティア活動をする」の1項目があげられた。

中学生における「あなたは、あなたのご両親の年齢になったとき、次の事は重要だと思いますか？」への回答において、高群においては、高群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「1. 仕事をしていること」「6. 生活全般に満足していること」の順に4項目があげられた。低群においては、低群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「1. 仕事をしていること」「6. 生活全般に満足していること」の順に2項目があげられた。

中学生における「あなたは、どんな仕事が重要だと思いますか？」への回答において、高群においては、高群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「4. 自分に合っている仕事」「11. 自分の個性を発揮できる仕事」の順に4項目があげられた。低群においては、低群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「4. 自分に合っている仕事」「11. 自分の個性を発揮できる仕事」の順に4項目があげられた。高群と低群を比較してみると、低群の平均値が高群より有意に高い項目は、「7. 責任の軽い仕事」「8. 人に命令されずにすむ仕事」の2項目があげられた。

中学生における「あなたは、次のような生き方は重要だと思いますか？」への回答において、高群においては、高群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「5. 早く自分の力で生きること」「1. 何かをやりとげて、この世に自分の生きた結果を残すこと」の順に3項目があげられた。低群においては、低群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「2. 自分のためよりも、人のために役立つ人間になること」の1項目があげられた。

中学生における「人生について次のような考え方があります。あなたはこれに賛成ですか、反対ですか？」への回答において、高群においては、高群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「3. 幸せに生きるためには、お金よりも愛情や友情の力が大きい」「1. がまんして努力しつづけていれば、いつか必ずむくわれる」の順に2項目が挙げられた。低群において

表5 中学生における相互作用群ごとの「人生に対する価値観に関する質問」への回答平均の比較(点)

1. あなたは、大人であれば、次のことは重要だと思いますか？	高相互作用群 (N=110)	低相互作用群 (N=29)
1、外国語を話せる	3.03 H	2.90
2、海外に留学する	2.15 L	2.03 L
3、海外で働く	1.90 L	1.83 L
4、ボランティア活動をする	3.29 H	2.93 #
5、仕事の面で成功する	3.42 H	3.52 H
6、幸せな家庭をつくる	3.76 H	3.62 H
7、有名人になる	1.83 L	2.17 L
8、人から尊敬される人になる	3.43 H	3.41 H
9、お金持ちになる	2.61 L	2.72
平均	2.82	2.79
2. あなたは、あなたのご両親の年齢になったとき、次の事は重要だと思いますか？	高相互作用群 (N=110)	低相互作用群 (N=29)
1、仕事をしていること	3.75 H	3.86 H
2、結婚をしていること	3.05	3.07
3、離婚をしていること	1.22 L	1.31 L
4、子どもがいること	2.89	2.90
5、家の経済は豊かなこと	3.41 H	3.31
6、生活全般に満足していること	3.60 H	3.52 H
7、今(中学時代)に比べて幸せだと思うこと	3.25 H	3.21
平均	3.03	3.02
3. あなたはどんな仕事が必要だと思いますか？	高相互作用群 (N=110)	低相互作用群 (N=29)
1、人のためになる仕事	3.62 H	3.55 H
2、お金がもうかる仕事	2.98	2.97
3、人から尊敬される仕事	3.35 H	3.38 H
4、自分に合っている仕事	3.91 H	3.86 H
5、休みがたくさんとれる仕事	2.54 L	2.76
6、むずかしい知識や技術のいる仕事	2.44 L	2.55 L
7、責任の軽い仕事	1.78 L	2.17 L *
8、人に命令されずにすむ仕事	2.30 L	2.83 *
9、なるのがむずかしい仕事	2.40 L	2.41 L
10、協調性のいらない仕事	1.91 L	2.24 L
11、自分の個性を発揮できる仕事	3.77 H	3.72 H
平均	2.82	2.95 *
4. あなたは、次のような生き方は重要だと思いますか？	高相互作用群 (N=110)	低相互作用群 (N=29)
1、何かをやりとげて、この世に自分の生きた結果を残すこと	3.15 H	3.14
2、自分のためよりも、人のために役立つ人間になること	3.14 H	3.31 H
3、この世に生まれてきた以上、ほかの人とは違う生き方をすること	2.57 L	2.69
4、お父さんやお母さんの生き方を見習って、生きること	2.61 L	2.31 L
5、早く自分の力で生きること	3.29 H	3.21
平均	2.95	2.93
5. 人生について次のような考え方があります。あなたはこれに賛成ですか、反対ですか？	高相互作用群 (N=110)	低相互作用群 (N=29)
1、がまんして努力しつづけていれば、いつか必ずむくわれる	3.19 H	3.14
2、人に迷惑さえかけなければ、何をしようとその人の自由だ	2.02 L	2.38 L
3、幸せに生きるためには、お金よりも愛情や友情の力が大きい	3.32 H	3.52 H
4、有名大学を出て出世している人は、人間として信頼できない	2.03 L	2.07 L
5、世の中で成功するには、実力だけでなく、運のよさが大事だ	2.86	3.28 H *
平均	2.68	2.88 *

H. 各平均値より有意に高い回答平均 ($p < 0.05$)L. 各平均値より有意に低い回答平均 ($p < 0.05$)*. 高相互作用群より有意に高い低相互作用群の回答平均 ($p < 0.05$)#. 高相互作用群より有意に低い低相互作用群の回答平均 ($p < 0.05$)

表6 中学生と母親における相互作用群ごとの「子どもが親もとを離れて生活する適切な時期」についての回答割合の比較 (%)

6、あなたは、子どもが親もとを離れて生活する時期はいつが適切だと思いますか？	中学生		母親	
	高相互作用群 (N=110)	低相互作用群 (N=29)	高相互作用群 (N=110)	低相互作用群 (N=29)
1、中学生のうちから	0.9	0.0	0.0	0.0
2、高校生のうちから	4.5	6.9	3.3	0.0
3、大学生のうちから	45.5	51.7	25.0	33.3
4、就職してから	35.5	27.6	46.7	66.7
5、結婚してから	10.9	13.8	23.3	0.0
6、結婚後も同居する	0.9	0.0	0.0	0.0
7、その他	1.8	0.0	1.7	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

#. 高相互作用群より有意に低い低相互作用群の回答平均 ($p < 0.05$)

は、低群の全体平均に比べ平均が有意に高い項目は、「3. 幸せに生きるためには、お金よりも愛情や友情の力が大きい」「5. 世の中で成功するには、実力だけでなく、運のよさが大事だ」の順に2項目があげられた。低群の平均値が高群より有意に高い項目は、「5. 世の中で成功するには、実力だけでなく、運のよさが大事だ」の1項目があげられた。

2) 親世代の価値観と親子関係の関連性

母親において子どもとの相互作用が高い群と低い群で、各価値観の質問項目の平均点を比較したが、検定不能および有意差はみられなかった。

3) 中学生と親世代の「子どもが親もとを離れて生活する適切な時期」と親子関係の関連性

表6に示すように、中学生における「あなたは、子どもが親もとを離れて生活する時期はいつが適切だと思いますか。」への回答率は、高群および低群の両者間に有意差はみられなかった。高群においては、「3. 大学生のうちから (45.5%)」「4. 就職してから (35.5%)」の順に回答率が高く、「1. 中学生のうちから (0.9%)」「6. 結婚後も同居する (0.9%)」が共に低かった。低群においては、「3. 大学生のうちから (51.7%)」「4. 就職してから (27.6%)」の順に回答率が高く、「1. 中学生のうちから (0%)」「6. 結婚後も同居する (0%)」が共に低かった。

母親における「あなたは、子どもが親もとを離れて生活する時期はいつが適切だと思いますか。」への回答率は、母親の高群・低群の両者間に有意差はみられなかった。高群においては、「4. 就職してから (46.7%)」「3. 大学生のうちから (25.0%)」の順に回答率が高く、「1. 中学生のうちから (0%)」「6. 結婚後も同居する (0%)」が共に低かった。低群においては、「4. 就職してから (66.7%)」「3. 大学生のうちから (33.3%)」の順に回答率が高く、その他はすべて0%であった。

IV. 考 察

1. 人生に対する価値観について

中学生の人生に対する価値観を全体的にみてみると、まず、大人として重要と考えることは、幸せな家庭や仕事の成功であり、特に、仕事の成功は男子の方が重要と考えていた。しかし、両親の年齢になった時には、男女共に仕事をしていることや生活全般の満足が重要と思っていることがわかる。先の研究⁸⁾においては、2000年、女性労働人口は2753万人となり、均等法成立時(1985年)の2367万人から386万人増加していることから、女性も男性と同じく仕事を持ち、自立した生活を送ることを重要だと思っている傾向にあることがいわれている。今回、仕事以外で男子の方が女子よりも重要と考えていることに、結婚していることや子どもがいることが挙がっていた。これは男子に比べ女子の方が、結婚や子どもにこだわっていない傾向を示唆している。これまでの研究⁹⁾においても、男女の社会参加の認識や役割期待については、夫の方が妻に家庭を守ってもらいたいとの意識が高く、妻との認識の差が言われているが、中学生の男女においても、意識差があると考えられる。

次に、重要と考える仕事についてみてみると、自分に合っていたり、個性が発揮できる仕事が重要と考える傾向があり、仕事において他者との協調性がいらぬことや責任の軽さなどは、重要と考えない傾向がみられた。これら仕事に対する認識からは、自分がやりたいことを大切にしていこうという傾向が読み取れるが、先の研究¹⁰⁻¹¹⁾でも、仕事に対する価値観の変化が激しく、働くことは会社で自分の人生を費やすことではなく、精神的に充実した人生を送る為の手段であるという考えが特に若者にはあり、職業選択の際、才能発揮を第1に考える傾向があるとされている。

中学生は、生き方や人生については、早く自分の力

で生きたいと考えており、男子は特に、何かをやり遂げ結果を残すことを重視する傾向があった。そして、男女共に役立つことが重要であり、幸せに生きるためにはお金よりも愛情や友情の力が大きく、努力は必ずむくわれると考えているが、男子の方が女子より幸せに生きるための愛情や友情の力、世の中で成功するための運のよさについてより強く感じていた。これまでの研究⁶⁾でも、中学生の多くが人生において努力や愛情、友情を重視しているといわれているが、特に男子は自分の力で人生を切り開くことを大切と感じ、女子は人と協調する中で幸せを感じていくことを大切にしているといわれている。今回の結果では、男子は愛情や友情という人との調和の中に幸せを感じていくことを大切にしていることがわかり、特に中学生男子の生き方や人生に対する考えが変化してきていると考えられる。

親世代の価値観をみてみると、大人として重要なことのうち、中学生と違い、人から尊敬されることが重要なことの上位に挙がっており、また、親世代の年齢で重要なことの上位に、子どもがいることが挙がっている。これは、現実的にみると中学生の回答のように、仕事をしていることが大人として重要かもしれないが、親世代からみると、仕事より人から尊敬されることが高い価値になってくると考えられる。また、離婚については未回答が多いなど回答に曖昧な点がみられ、自由記述に「答えにくかった」などの感想があり、一概には言えないが、親世代の年齢においては重要ではないという回答が多かったのは、現代の離婚率の高さからみると、ひと昔前よりは、離婚することへの抵抗が少なくなっているためと考えられる。また、家族・親子の問題の複雑さがあるものの、子どもがいることは重要と親世代は考えているようである。

さらに、仕事自体については、中学生と同様に、親世代も自分に合った仕事や個性が発揮できる仕事を重要と考えており、人生についても、幸せにはお金より愛情や友情の力が大きく、努力は必ずむくわれると感じていると考えられる。

親元をいつ離れるかということについては、中学生の約半数弱が大学生のうちからと考えているが、親世代の約半数は就職してから、特に父親は6割がそのように考えており、大学生のうちから考える親世代は2割程度であることも含めると、親子間の意識の差が大きいと考えられる。これは、不況で収入が不安定な家庭が増えており、大学生のうちから仕送りをする余裕のなさがあり、一方で、子どもを親元から出すことの寂しさも考えられる。特に母親は、中学生に比べ、「結婚してから」親元から出すと考えており、子どもが巣立つ寂しさがあるのではないだろうか。先の研

究¹²⁾においても、子どもが成長していくうえで母親は母親役割に依存しているため、母親の近くに居たい、居なければならないという子どもの気持ちより、子どもに近くに居てもらいたいという母親の気持ちの方が強い傾向にあるといわれているため、今回の結果には、このような母親固有の意識が反映していると考えられる。

2. 親子関係について

中学生の親子関係を全体的に見てみると、まず、コミュニケーションに関しては、親と実際に1日1回は会話をしていたり、話をする機会が多いと感じていた。特に女子は男子に比べて、学校や友人のことについてよく話していた。しかし、男女共に親に悩み事を相談することはあまりなく、男子は特にその傾向が強かった。先の研究³⁾でも、親との会話は男子より女子の方が多く、このとき、親は母親である場合が多く、思春期である中学生男子にとって異性の母親よりも、友人同士での会話が多いと思われる。

次に、「しつけ」について見てみると、自分のことは自分でやるよう親からよく言われていると感じ、親はやっている事にあまり手を貸さないようである。これは、共働きの夫婦が増えていることや中学生の習い事をしている割合が増え、家の中で親子と一緒に生活する時間が少なくなっているからではないだろうか。先の研究³⁾においても、同じ結果がみられ、個人生活の重視が家庭内に広がり、自立的あるいは放任的な親子関係が増えているといわれている。

親世代の親子関係をみてみると、中学生と同じくコミュニケーションに関しては、子どもと毎日会話をしており、話す機会が多いと感じている項目が上位に挙がっていた。このとき、父親に比べ母親の方が子どもと多く話をしているのは、母親の関心・時間が子どもに多く向けられ、実際の親役割を遂行するのはほとんどが母親で、父親は職業に力を注いでいる現実が背景にあるためだと考えられる。

次に、中学生、特に中学生女子が親の生き方を尊敬しているのに対し、親世代は子どもにあまり尊敬されていないと感じていた。親は子どもとコミュニケーションをよくとっていると感じているにもかかわらず、このように親子間で意識の差がみられるのは、人生観や生き方について親子で話す機会があまりないことや、先の調査¹³⁾でも中学生の約8割が親を尊敬しているという結果が出ているように、子どもが考えているよりも、親は自分の生き方に自信がないためではないかと考えられる。

3. 人生に対する価値観と親子関係の関連性について

まず、中学生と母親において「親子でお互いに話を

する機会が多い」における、回答割合を見てみると、親子のコミュニケーションの機会が多いと思っているのは母親の方であり、中学生は母親が思うほど親子のコミュニケーションを多いと思っていないと考えられる。先の研究³⁾でも同じ結果がみられ、女性は特に母親は、家庭内コミュニケーションをよくとる傾向にあり、家族との密着感が強いと言われている。

中学生の人生に対する価値観と親子関係の関連性を全体的に見てみると、まず、大人として重要だと考えることは、親との会話が少ないにかかわらず、どちらも幸せな家庭や仕事の成功、人から尊敬されることであり、特に親との会話が少ない中学生は、仕事の成功を重要と考えており、一方、ボランティア活動については、親との会話が少ない中学生の方が会話が少ない中学生よりも重要と考えていた。しかし、両親の年齢になった時には、親との会話が少ないにかかわらず、どちらも仕事をしていることや生活全般の満足が重要と思っていることがわかる。先の研究³⁾では、高い地位につくことや高い収入を得るなどの、地位達成への強い志向を示すことを「階層志向性」とし、打ち込めるものを持つことや趣味を楽しむなどの、私生活の充実を求めることを「充足志向性」としている。この研究では、会話が少ない親子は階層志向性が強く、会話が少ない父親と子では充足志向性が強く、母親と子では階層志向性が強いことが言われている。今回は親子間相関の研究は行っていないが、親との会話が少ない中学生は仕事の成功を重要と考えることから、階層志向性が強いと思われる。また、小此木¹⁴⁾によると、ボランティアとは、何者にも拘束されず、自分の自由な意志で、特定の興味・関心を抱いた時に、何らかの場と役割に対して自由にそこに関わることであると言われている。このことから、親との会話が少ない中学生はボランティア活動を通して私生活の充実をはかっていると考えられるため、充足志向性が強いと推測される。今回、親とよくコミュニケーションをとっている中学生は、ボランティア活動など他者とのふれ合いに生活の充実を感じていたが、この結果は先の研究と異なっている。これは、今回の対象が中学生であり、先の研究は対象が高校生であるためと思われる。つまり、高校生年代で親子の会話が少ない場合は、将来の夢や仕事など階層志向に傾くものと考えられる。一方、親とあまりコミュニケーションをとっていない中学生は、仕事の面で成功し、高い地位に就くことが大切だと感じていると考えられる。

次に、重要と考える仕事について見てみると、親との会話の多少にかかわらず、どちらも自分に合ったり、個性が発揮できる仕事が重要と考え、責任が軽く協調性のいらぬ仕事は重要と考へない傾向がみら

れた。しかし、親との会話が少ない中学生は、会話の多い中学生よりも、仕事において責任の軽さや人に命令されないことを重要と考えていた。これら仕事に対する認識から、自分のやりたいことを大切にしてい中で、親との会話が少ない中学生は、責任が軽く、人との関わりが少ない仕事を重要と考えていることがわかる。これは、親との会話が少ないため、人とのコミュニケーションに多少の苦手意識があるからではないかと考えられる。

生き方や人生については、親との会話が少ない中学生は早く自分の力で生きることや何かをやり遂げることを重視し、親との会話が少ない中学生は、人のために役立つことを重視する傾向があった。そして、親との会話の多少にかかわらず、どちらも幸せに生きるためにはお金よりも愛情や友情の力が大きいと考えているが、親との会話が少ない中学生の方が、会話が少ない中学生より、世の中で成功するための運のよさについて強く感じていた。先の研究³⁾において、実際に価値意識が伝達される際には、家庭内の社会関係が影響を与え、コミュニケーションが頻繁で濃密な場合には一層相互の価値志向相関が強まっていくといわれている。そこで、親との会話が少ない中学生が早く自分の力で生きingことを重要だと考えるのは、親とのコミュニケーションを通し、自分の人生について考え、何かをやり遂げたいという将来の希望を持っているためではないかと考えられる。

親世代の人生に対する価値観と親子関係の関連性をみてみると、大人として重要なことでは、子どもと会話が少ない親は中学生と同じく、幸せな家庭をつくることや人から尊敬されること、ボランティア活動することが重要なことの上に挙がっていた。しかし、親世代の年齢で重要なことの上に、子どもとの会話が少ない親では子どもがいることが挙がっている。菊池¹⁵⁾によると、現在増加している核家族では、少数の子が注目され、主に母親によって手をかけられて育てられていると言われている。そこで、子どもと会話が少ない親にとって子どもがいることは、自分の生活が充実することであると考えられ、親との会話が少ない中学生で先に述べたように、親世代においても、子どもと会話が少ない親は、充足志向性が強いと思われる。

さらに、仕事自体については、中学生と同様に、子どもとの会話の多少にかかわらず、自分に合った仕事や個性が発揮できる仕事を重要だと考えており、人生についても、幸せにはお金よりも愛情や友情の力が大きいと感じていると考えられる。

子どもが親元を離れる適切な時期については、中学生では親との会話の多少で差は見られなかったが、親世代では、子どもとの会話が少ない親の方が、少ない親

よりも「その他」の回答で高く、「結婚してから」の回答では、子どもとの会話が多くの親で約20%、子どもとの会話が少ない親で0%と差がみられた。子どもとの会話が多くの親は、子どもとよくコミュニケーションをとることで、子どもの考えを理解し、親元を離れる時期はその人次第であると考えた割合が多かったが、一方では、親元を離れる適切な時期を「結婚してから」と考える親が多いことから、子どもとよくコミュニケーションをとることが、子どもと離れる寂しさや子どもへの依存が強くなる原因になるとも考えられる。

V. ま と め

今回、中学生とその親世代における人生に対する価値観と親子関係、また、その関連について知ることを目的に、ある中学校の3年生とその保護者を対象とした質問紙調査を行い、分析の結果、以下の結論を得た。

1. 中学生において、大人として重要と考えることは、幸せな家庭や仕事の成功であり、女子も男子と同じく仕事を持ち自立した生活を送ることを重要だと思う傾向があった。

2. 中学生において、男子に比べ女子の方が結婚や子どもにこだわらない傾向があり、男女の社会参加の認識や役割期待について意識差があると考えられた。

3. 中学生において、仕事に関しては、自分がやりたいことを大切にしていく傾向があり、生き方や人生に関しては、男女共に早く自分の力で生きたいと考え、人のために役立つ事や愛情や友情、努力を重要視する傾向があった。

4. 親世代において、大人として重要と考えることは、人から尊敬されることと子どもがいることであり、中学生との間に違いが見られた。

5. 親世代において、仕事に関しては、中学生と同じく、個性の発揮を第一と考える傾向があり、人生についても愛情や友情の力・努力を重要と考える傾向があった。

6. 親元を離れる適切な時期に関しては、中学生は大学生のうちから、親世代は就職してからと考えており両者間で違いがあった。

7. 親子関係に関しては、中学生特に中学生女子は、親とのコミュニケーションをよくとっており、親世代では父親に比べ母親の方が子どもとコミュニケーションをよくとっている傾向があった。

8. 中学生の価値観と親子関係の関連については、親との会話が多くの中学生はボランティア活動など生活の充実を重要視し、親との会話が少ない中学生は仕事の成功など高い地位に就くことを重要視している傾向が見られた。また、親との会話が多くの中学生は早く自分の力で生きることを重視している傾向があった。

9. 親世代における価値観と親子関係の関連については、子どもとの会話が多くの親は子どもがいることで生活が充実し、そのことが親世代の年齢において重要と考えていた。

参 考 文 献

- 1) 藤田英典：子ども・学校・社会「豊かさのアイロニーのなかで」、東京大学出版会、1992
- 2) 庄司知明・藤田尚文：親の価値観が子どもの価値観に及ぼす影響、高知大学教育学部研究報告、58 (2)、1-12、1999
- 3) 古賀正義：価値意識にみられる親子間相関の分析、宮城教育大学紀要、31、149-158、1996
- 4) 深谷昌志：中学生の親子関係～依存と自立との谷間で～、1985
- 5) 松井洋：日本の若者のどこがへんなのかー中学生・高校生の国際比較からー、川村学園女子大学研究紀要、11 (1)、101-114、2000
- 6) 深谷昌志・田中統治・井上健・深谷野亜：モノグラフ／中学生の世界 vol. 58 中学生の人生観、ベネッセ教育研究所、1997
- 7) 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹：価値観測定の研究と方法についての文献展望、追手門大学文学部紀要、27、1-19、1993
- 8) 富岡恵美子・吉岡睦子：現代日本の女性と人権、明石書店、2001
- 9) 社団法人 日本家政学会：家族関係学、朝倉書店、1991
- 10) 大阪教育文化センター「子ども調査」研究会：21世紀をになう子どもたちー子どもの権利条約の具体化をめざしてー、法政出版株式会社、1993
- 11) 社団法人 ユースボウル・ジャパン：現代の若者の意識調査、1998
- 12) ルイ・ジュヌヴィ、エヴァ・マルゴリー：母親！、朝日新聞社、1989
- 13) 青少年白書 平成13年版、2001
- 14) 小此木啓吾：視界ゼロの家族 夫婦・親子のゆくえ、海竜社、1996
- 15) 菊地和典：親・教師・友人と子どもの関係、開隆堂出版株式会社、1991